

記念誌 25 頁「学園歌作成を物語る書簡発見」で手紙文、
132 頁大岡博先生 50 周年祝歌の解説について訂正がありました。
ここに、正確な文面と解説文を以下のように掲載します。

昭和2年2月27日付 佐佐木信綱より秋鹿見橋校長宛書簡
「雪のなごりニ日の光うつくしう候。さて切角御依頼をうけ候所おも
ふやふに候はねとも、つくりをえ、さし上候。曲の工合等にてかやう
＼／と御申遣し被下候者、如何やうにも相直し可申候やう申給候。
生徒の方々の為ニあまり長きものよりハと二節ニ限置候。よしなに御
承知給はり度候。かしこ 二月廿七日 佐佐木内 秋鹿校長 御許」

※解説(読みやすくした文)
(雪のなごりに日の光うつくしく候。さて、折角ご依頼を受け候ところ、思うように候はねども、作り終え、さし上げ候。曲の工合にてかやうかやうと御申しかわし下され候へば、如何ようにも相直し申すべく候よう申したまひ候。生徒の方々のために、あまり長きものよりハと、二節に限り置き候。よしなに御承知給はりたく候。二月二十七日 佐々木内)

昭和2年3月7日付 東京音楽学校(現東京藝術大学)教授 島崎赤太郎氏より秋鹿見橋校長宛書簡
「拝啓 陳者 先日御依頼ノ御校歌作曲ハ、本校信時(潔)教授ニ委嘱。本日完成、御送付ニ付、御落手相成度此段得貴意候。 敬具」
※解説(読みやすくした文)
(拝啓 陳ぶれば 先日ご依頼の御校歌作曲は、本校 信時潔教授に委嘱。本日完成、ご送付に付、御落手相成り度くこの段貴意を得候。敬具
三月七日島崎赤太郎 沼津精華高等女学校長 秋鹿見橋 殿)

続いて、昭和2年3月17日付 同じく島崎赤太郎氏より秋鹿校長宛書簡
「拝復 益御清康の段。奉賀上候 陳者 御申越の貴校々歌第二章中の「まなひのはな」及「みくにのはな」は共に「せいくわ」と歌ひて、曲節上、差支なきに付、別紙に訂正致し置き候間、此段御承知下され度候、勿々 三月十七日 島崎赤太郎 秋鹿校長殿 」
※解説(読みやすくした文)
(拝復 ますます御清康の段。賀し上げ奉り候。陳ぶれば お申し越しの貴校校歌第二章中の「学びの華」及び「御国の華」は共に「精華」と歌いて、曲節上、差し支えなきにつき、別紙に訂正致し置き候間、此の段御承知下されたく候。勿勿。)

また、132 頁 大岡博先生 50 周年祝歌第 2 首
「志 たかくかゝげて ちちのみの ちちがみ力 継ぎてあまさず」
(解説訂正は愛媛大学日本史中世史専攻の川岡勉教授に協力願いました。)